

# 読書のすすめ

その6

H 31 4 / 17

## 新任者紹介⑤

鈴木 康裕先生（2年6組副担任・商業）



### 『きみの友だち』重松清

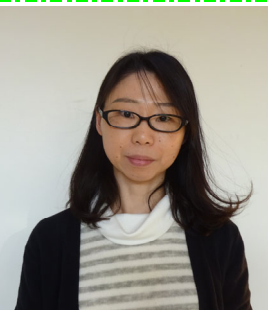
お勧めしたい作家を紹介します。重松清さんです。人間模様を題材にした作品が多く、読み手を引きつける文体で、これから本を詠んでみたいと考えている高校生にもお勧めできる作品が多くあります。ぜひ手に取ってみてください。



その中から『きみの友だち』を紹介します。親友と友達の違いは何だろう。友人との関係について困ってはいないけど、何かモヤモヤした部分がある。多くの人が一度くらいは考えた経験があると思います。友人との関係から自身を見つめ直すきっかけになる一冊です。



小倉 由起子先生（事務・係長）



### 『スूप屋しずくの謎解き朝ごはん 今日を迎えるためのポタージュ』友井羊（宝島社）

見た目やタイトルだけで本を買うことが多いです。そのためか、購入しても最後まで読み終わらないこともありすが...。この本も、駅の本屋さんでタイトルだけ見て選びました。早朝にひっそり営業しているスूप屋さんのお話です。そのスूप屋さんを中心に話が展開されていきます。シエフが作るスूपの細かい描写（表現）にひきつけられます。早朝に集うそんなお店に行ってみたくありません。シリーズでいろいろ出版されているようですので、是非読んでみてください。

杉浦 克弘先生（1年1組副担任 農業科担当）



### 『エジプトがすぎだから。』k・m・p（角川書店）

謎に満ち溢れた国、エジプト！そこには、未だ何の為に造られたのかわからない、不思議な巨大石像ピラミッドが、そびえ立っていますよね。どうですか皆さん！一度は見たいと思いませんか？でも時間が無い？費用が...そうですよ。簡単にエジプトなんて行けませんよね。そんな人のために是非！お薦めの一冊があります。この本を読んだらあなたもきつと、自然と笑顔になり、エジプトへ行きたくなくなります。イラストも多くガイドブックとしても最適ですので、是非！読んでみてください。

高橋 清代先生（2年6組担任・英語）



### 『メイクが喜びに変わる答え』内田裕士（大和書房）

『面倒、苦手、難しい、センスがない、そもそもやらない...すべて解決！人はそれぞれ意味があって価値があってその顔に生まれてきたらしいです。大きな顔で生まれてきた人は大きな顔に生まれた意味と価値があり、小さな顔で生まれてきた人はそれがちょうどよくて、生まれ持つて造形された顔はみんなそれ完璧な計算で造られており、それぞれ美しいそうです。生まれ持った顔を変えるようメイクや整形は意味がまったくありません。自分の顔が嫌いな人は是非読んでもらいたいです。笑いながら読めるし、読んだあと、生まれ持った自分の顔に愛着が持てるかもしれません。巻末では、自分の顔が何タイプなのか診断もできます。分類された顔によって、性格や持味も異なり、長所も短所も含め、無理せず飾らず、自分の顔にあった人生を送りたいと思える一冊です。

